

令和4年度 NO. 3

コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

R 4.1 0.1 9

(事務局：国見町教育委員会学校教育課 ☎585-2892)

第3回CS委員会は、
9月26日（月）、県北中学校を会場に開催しました。

県北中学校の授業の生徒の様子を見るとともに、前回に続き
熟議では「くにみ学園構想」について、協議がなされました。



県北中学校を参観した声から

みんな集中して取り組んでいた。掲示物も中学生らしい表現があり、
素晴らしいと思った。



昔と違って教え込む
のではなく、考えさせ
るような授業の仕方
であった。みんな熱心
に取り組んでいた。



自主的に発言する生
徒が多いと思った。先
生方の指導があってこ
そだと思う。

3年生の数学の授業
を見て、手元の小さな
資料を画面に映し出す
工夫があるといいと思
った。

昔と違って、自然と生
徒から答えるような指
導をしていると感じた。席
順も男女混合であったの
に感心した。

生徒の授業の様子を参観するCS委員

自分のころと比べて生徒の数が減っていると感じた。廊
下の掲示板は、誰が見てもすぐにわかる状態で掲示されて
いることに感心した。

中学校の新しい制服は「くにみ学園構想」で検討

昨年度、中学校と小学校で「中学校の制服」に関するアンケートを実施したところ、「必要」
が多数でしたが、「変えて欲しい」は中学校生徒で45.3%、小学校児童で50.0%、中学
校保護者で52.9%、小学校保護者で81.1%でした。

今回、CS委員会では「くにみ学園構想」が進んでいることから、現状の課題を柔軟な運用
で解決できないか、中学校で検討してもらうこととしました。これを受け、県北中学校長より、
生徒の意見も聞きながら、運動着での登校や夏季の対応など柔軟に考えていきたいとの発言が
ありました。

くにも学園構想策定に向けて

園児・児童・生徒（園・学校）が、地域と一緒に何ができるか、地域学校協働活動をどう進めていくか

くにも学園構想における「地域学校協働活動の進め方」について話し合いを行いました。

1班

- ・地域のお祭り、イベントは企画から参加してもらおう。年代を超えたスポーツの交流もよい。
- ・子どもたちにSNSなどで町のPRをしてもらったり、子どもに町の案内人を買ってもらおう。
- ・やらされるのではなく、自分たちでやることが大事。

3班

- ・国見を知る・学ぶために、地域と一緒にイベントを企画して町の活性化につなげる。
- ・町の伝統文化やスポーツを小さい子からお年寄りまで一緒に取り組めると良い。
- ・高齢者の見守りや防災ボランティア活動を一緒に考えていくことも重要。

5班

- ・町内会などは大人で作られているコミュニティであるので、受け入れる側も変わっていかなければならない。
- ・大人と子どもがつながることができる簡単な取り組みはごみ拾い。そこから、学校・地域のつながりの可能性が広がる。



<くにも学園について話し合うCS委員>

2班

- ・中学生が企画や提案をする機会をどんどん取り入れ、子どもたちが考えたことに大人たちが支援していく。
- ・例えば千年公園のハスを育てて花を咲かせるお手伝いは、楽しみながらできるのではないかな。

4班

- ・地域行事のお手伝いではなく、総合学習のカリキュラムに入れて、子どもたちが実行委員となり、企画から関わりをもつようにする。
- ・子どもたちも地区のために何かをしたいという気持ちがあるので、町のイベントのポスター作りを美術部をお願いしたり、大人から協力求めることも大事ではないかな。



<指導助言：宮城教育大学 野澤令照先生>

- ・くにも学園を作り上げていくことの一番のポイントは、子どもたちを参画させること。
- ・くにも学園の主役は子どもであるので、考えるところ、企画するところ、参画するところを子どもたちにやらせてほしいと思う。
- ・くにも学園も仕掛けや工夫で、大人も子どもも一緒に集えるような場、学校を核としたコミュニティ、地域が創られていく、そんな学園にして欲しい。